



校歌が愛校心を高めてくれる

学校長 村越 新

10月4日(金)に音楽朝会で校歌を歌いました。全校で、三番まで歌いました。この様子は動画で撮りました。50周年式典で流す予定でいます。

思えば、扇小の子全員で、しかも三番まで校歌を歌ったのは、5年ぶりのことです。令和2年度三学期始業式で歌われて以来、全校で歌うこともしばらくありませんでした。歌ったとしても一番だけでした。全校児童の歌声が体育館に響くのを聴くのも久しぶりでした。私は一緒に歌いながら感動しました。教職員も、扇っ子も感動したと思います。

この日の感想を、四年生の子が音楽振り返りカードに書いてくれたので紹介させていただきます。

「全力で、大きな声で歌ったので、自分が50倍輝いた」

「のどが痛くなるくらい歌った」

「みんなで歌うと元気に、盛り上がる」

「扇小が生まれたときから50年歌われてきた校歌を歌えて、うれしい」

扇小学校の校歌には、扇小の子供たちの姿として引き継がれてきたメッセージが刻まれています。

一番 ♪張り切って 楽しく 勉強しよう♪ (主体的に学ぶ)

二番 ♪がんばって 負けずに 勉強しよう♪ (最後までやり切る)

三番 ♪肩くんで 仲良く 勉強しよう♪ (協働的に学ぶ)



どの学校にも校歌があり、その学び舎で成長してもらいたいという作者の思いが込められています。校歌を大事に歌うことは、愛校心を高めます。愛校心が高い子は間違いなく、前向きに精一杯学校生活を送ります。開校当時に誕生し50年間歌われてきた校歌、これからも大事に歌っていききたいものです。

大好きな大好きなこの学校で。

11月8日（金）、研究発表会を行います。入間市内の先生方が、本校の研修成果について学びに集まる会です。この日の内容は以下の通りです

研究発表会

- ・ 公開授業 （1年4組、4年生全クラス、6年4組） *すべて算数
- ・ 研究発表 （令和5年度からの研修内容）
- ・ 記念講演 「ききあう、かんがえあうために」 永井玲衣氏

ご講演をいただく**永井玲衣氏**は、哲学者です。著書に『水中の哲学者たち』『世界の適切な保存』などがあります。

永井氏は「**てつがく対話**」という活動を全国各地（学校も含む）で行っています。この対話に3つのルールがあるようです。

- 1) よく聞くこと
- 2) 自分の言葉で話すこと
- 3) “結局ひとそれぞれ” にしないこと

永井氏は著書『水中の哲学者たち』のなかで「完全に通じ合わなくてもいい。わかりあうことはゴールではない。わかりあうのではなく、わかりあおうとしあうこと。互いに空を飛ぶことを**夢見ること、それだけでいい**」と述べています。

本校が実践している学び合いの学習にも通じるところがあり、貴重なお話を聴くことができると楽しみにしています。

失敗が自走する子を育てる

今年の運動会のメインイベント（全員競技）は、大玉送りです。実施方法もバージョンアップしましたので、教職員も含めて全校で熱くなっています。

何度か練習をしましたが、うまくいきません。玉が落ちたり止まったり。その度にリーダーは**反省**をして**対策**を生み出し、自らのチームに伝えています。

「**失敗は成功の母**」。子供の成長過程失には、失敗する経験が必須だと思います。チャレンジ精神を鍛えるためでもあります。

教育ジャーナリストの中曽根陽子氏は、子供に失敗経験が必要な理由を次のように述べています。

- ・ 失敗経験をしないと、困難にぶつかって挫折しやすい大人になってしまうから
 - ・ 「失敗を乗り越える成功体験」が後々、経験値として威力を発揮するから
- 成功や達成過程での「失敗」は、自走する子を育てる大事な体験だと思います。

